

建屋周辺の地下水位、汚染水発生量の状況

2026年 2月 26日

TEPCO

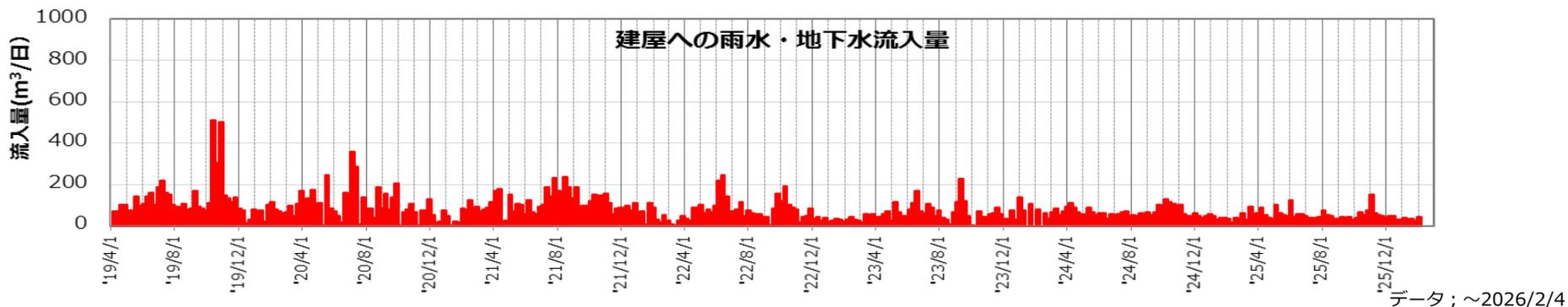
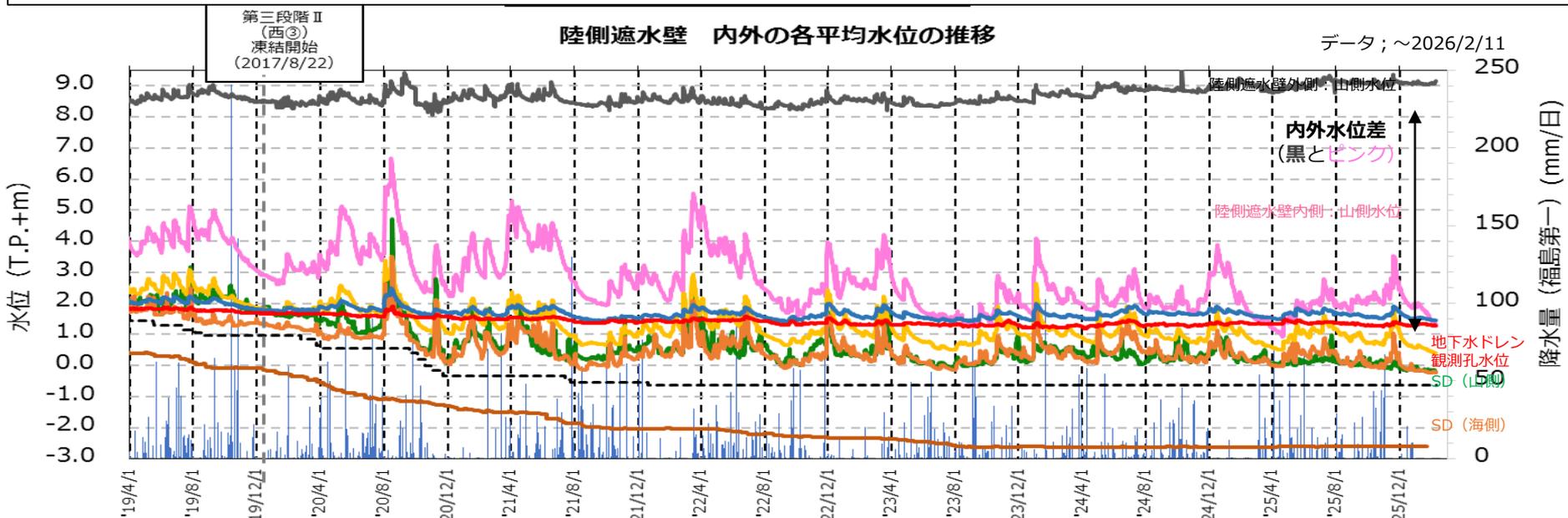
東京電力ホールディングス株式会社

1. 建屋周辺の地下水位、サブドレン等のくみ上げ量について	P2～3
2. 汚染水発生量について	P4
参考	P5～23

1-1. 建屋周辺の地下水位の状況

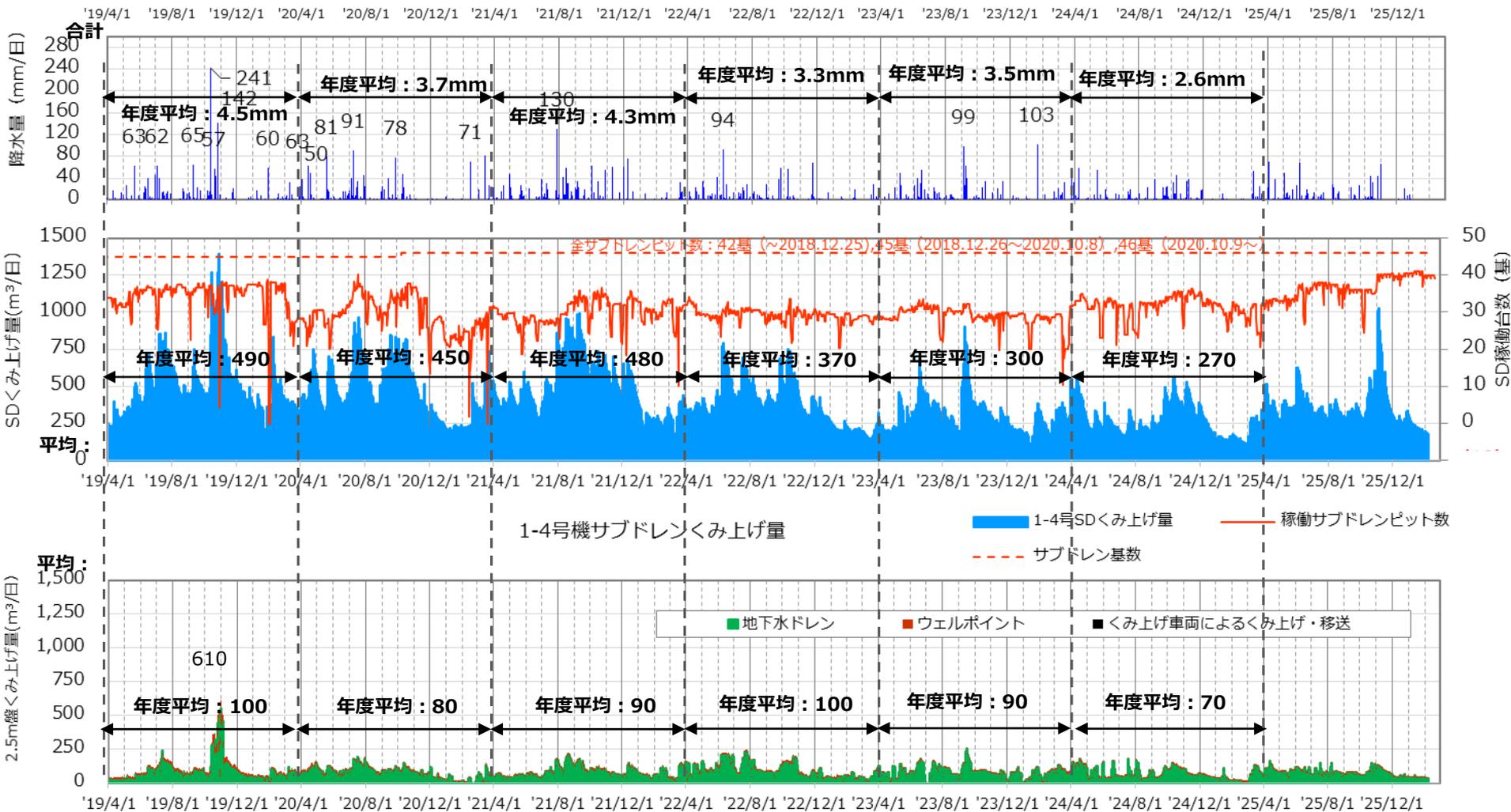
- 陸側遮水壁内側エリアの地下水位は山側では降雨による変動があるものの、内外水位差は確保した状態が維持されている
- 地下水ドレン観測井水位は約T.P.+1.4mであり、地表面から十分下回っている（地表面高さ T.P.+2.5m）

- 1F降雨
- 注水井・観測井（山側）
- サブドレン（海側）
- サブドレン設定水位（ポンプ稼働下限値）
- 地下水ドレン観測井水位
- サブドレン（山側）
- 陸側遮水壁（海側）海側水位
- 陸側遮水壁（山側）山側水位
- 注水井・観測井（床面露出した建屋を除く）
- 建屋水位（制御用水位計全平均）



1-2 サブドレン・護岸エリアのくみ上げ量の推移

- 1-4号機サブドレンは、降水量に応じて、くみ上げ量が変動している状況である
- T.P.+2.5m盤くみ上げ量は、T.P.+2.5m盤エリアのフェーシングが完了しており、安定的なくみ上げ量で推移している状況である



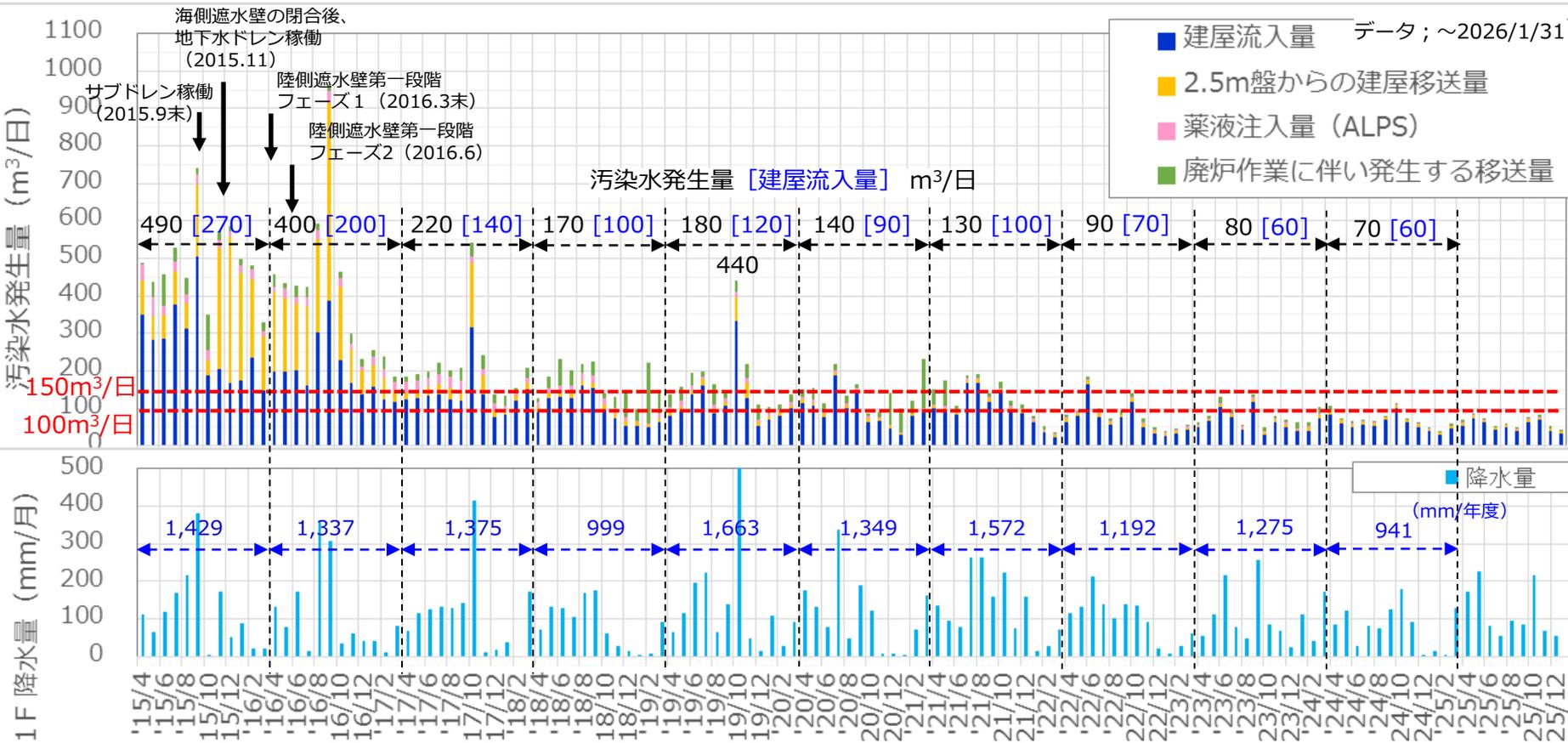
T.P.+2.5m盤くみ上げ量 (ウェルポイント・地下水ドレン・くみ上げ車両)

データ; 2026/2/11

※年度平均値は、降水量を除き10m³単位で四捨五入

3-5 汚染水発生量の推移

- 2025年度の汚染水発生量はギャップ端部止水等の継続的な対策により、1月末現在の状況で、年度末において約60m³/日、平年雨量相当で約70m³/日と想定され、今後の各設備の運転状況にもよるが、2025年度に“約50～70m³/日程度に抑制する”は70m³/日程度で達成出来る見通しである。
- 2026年1月は降雨量が0mmであり、建屋流入量は約30m³/日、汚染水発生量は約40m³/日だった。



注) 2017.1までの汚染水発生量(貯蔵量増加量)は、建屋滞留水増減量(集中ラド含む)と各タンク貯蔵増減量より算出しており、気温変動の影響が大きいため、2017.2以降は上表の凡例に示す発生量の内訳を積み上げて算出する方法に見直している。よって、2017.1までの発生量の内訳は参考値である。

【参考 1】地中温度分布

【参考1-2】地中温度分布図（1・2号機西側）

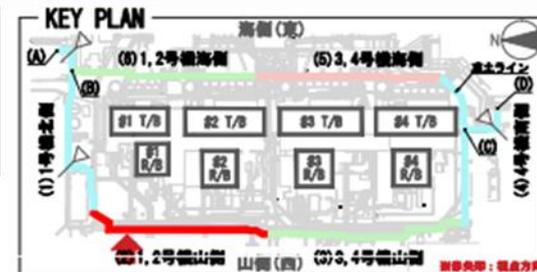
■ 地中温度分布図

(2) 1,2号機山側（西側から望む）

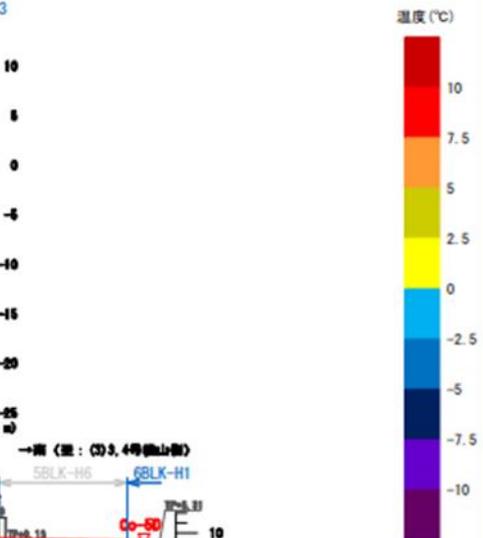
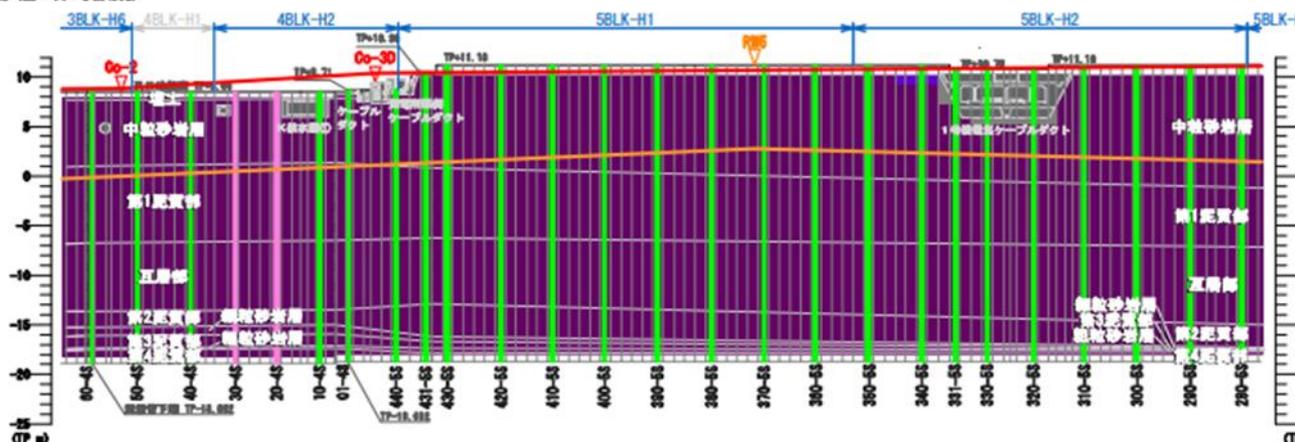
（温度は2/10 7:00時点のデータ）

凡例

■ 緑線	: 配風管（凍土ライン外側）	▽ 下向き	: 層（リチャージ Jewel）
■ 赤線	: 配風管（凍土ライン内側）	▽ 上向き	: CI（中級砂岩層・内側）
■ 紫線	: 板列部凍結管	▽ 下向き	: Co（中級砂岩層・外側）
■ 赤線	: 凍土層外側水位	▽ 上向き	: 凍土折れ点
■ 赤線	: 凍土層内側水位	↔	: プライン接続範囲
		↔	: プライン停止範囲

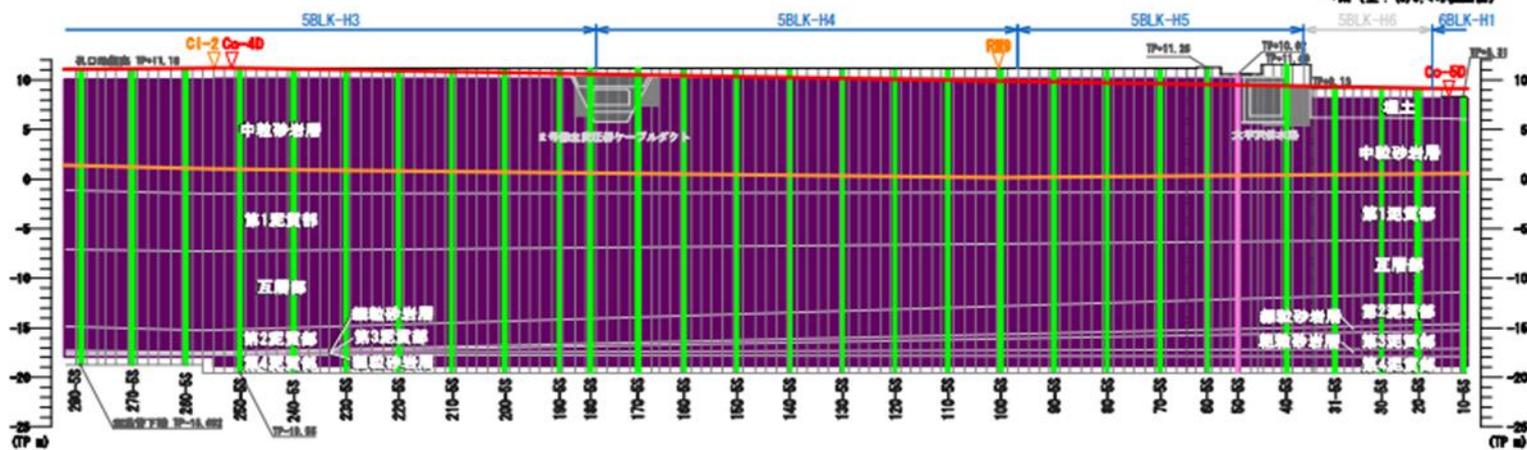


←北（※：(D)1号機北側）



白：計測対象外含む
灰：埋設内

←北（※：(C)3,4号機北側）

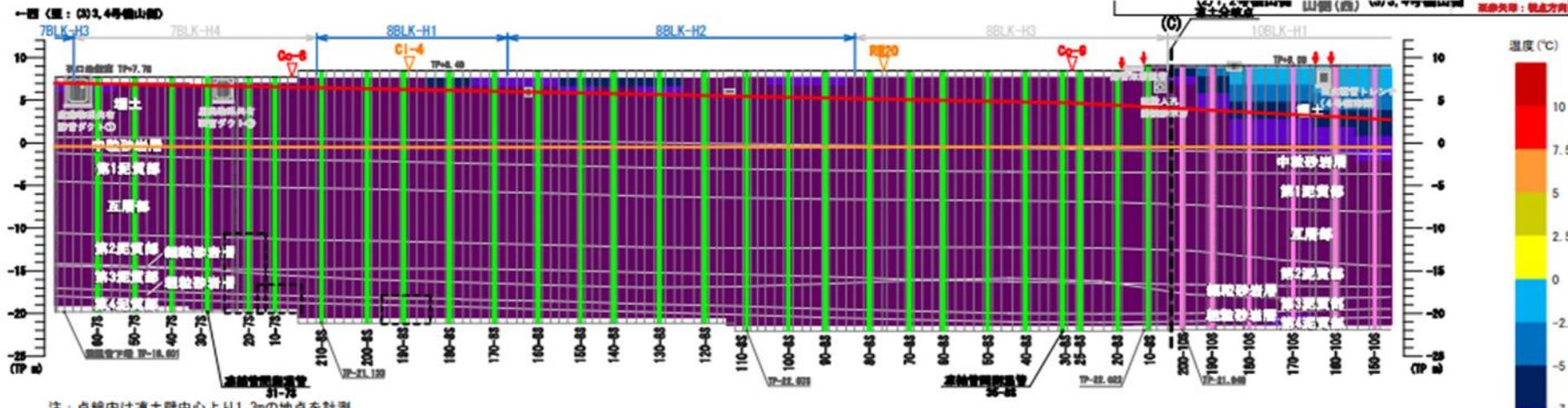


■ 地中温度分布図

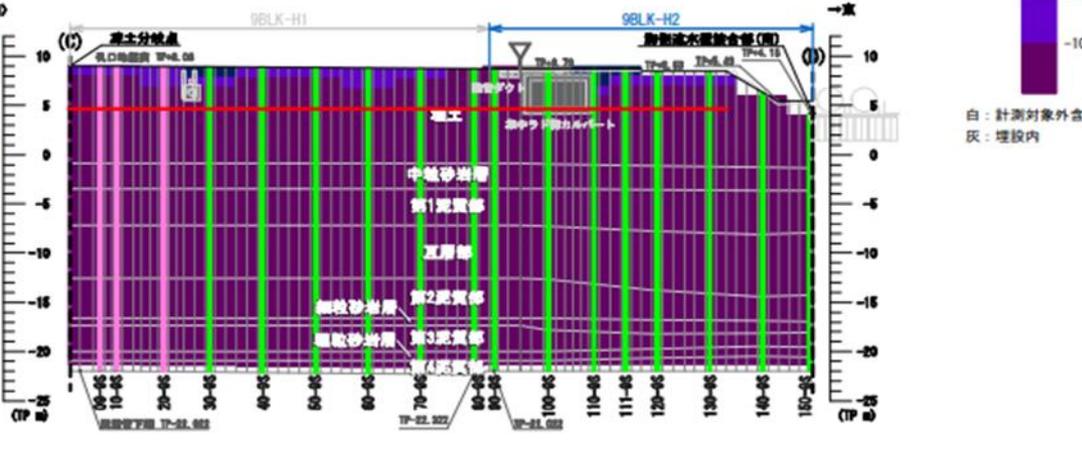
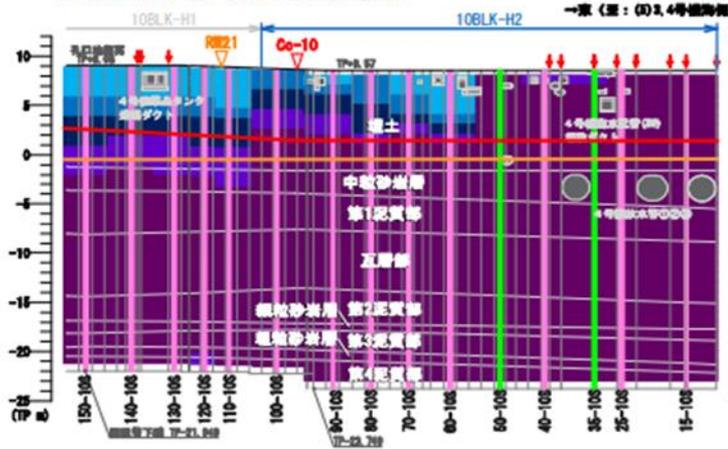
(4) 4号機南側（南側から望む）

（温度は2/10 7:00時点のデータ）

- 凡例
- : 配湯管（凍土ライン外側）
 - : 配湯管（凍土ライン内側）
 - : 板列部凍結管
 - : 凍土壁外側水位
 - : 凍土壁内側水位
 - ▽ : 層（リチャージ Jewel）
 - ▽ : C1（中粒砂層・内側）
 - ▽ : Co（中粒砂層・外側）
 - ▽ : 凍土折れ点
 - ↔ : プライン接続箇所
 - ↔ : プライン停止箇所



注：点線内は凍土壁中心より1.3mの地点を計測



白：計測対象外含む
灰：埋設内

■ 地中温度分布図

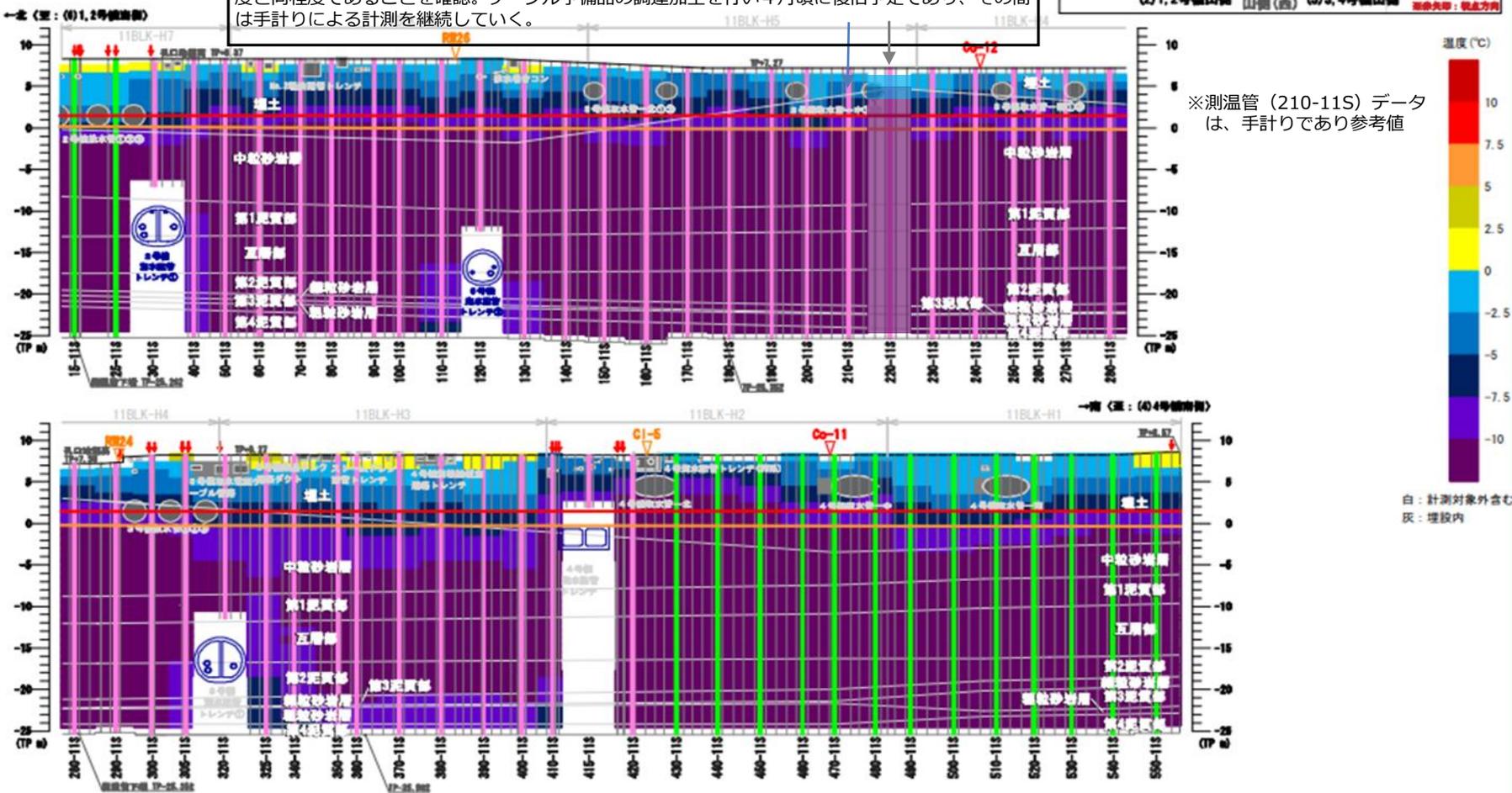
(5) 3,4号機海側 (西側：内側から望む)

(温度は2/10 7:00時点のデータ)

- 凡例**
- 測温管 (凍土ライン外側)
 - 測温管 (凍土ライン内側)
 - 縦列部連結管
 - 凍土壁外側水位
 - 凍土壁内側水位
 - ▽ 層 (リチャージジュエル)
 - ▽ CI (中級砂岩層・内側)
 - ▽ Co (中級砂岩層・外側)
 - ▽ 凍土折れ点
 - ↔ プライン設置範囲
 - ↔ プライン停止範囲



※測温管 (210-115) データは、2025/12/18より欠測。2026/2/16に管内が凍結しており、測温ケーブルが断線していることを確認した。内部の温度は、手計りにより、周辺の測温管の計測温度と同程度であることを確認。ケーブル予備品の調達加工を行い4月頃に復旧予定であり、その間は手計りによる計測を継続していく。



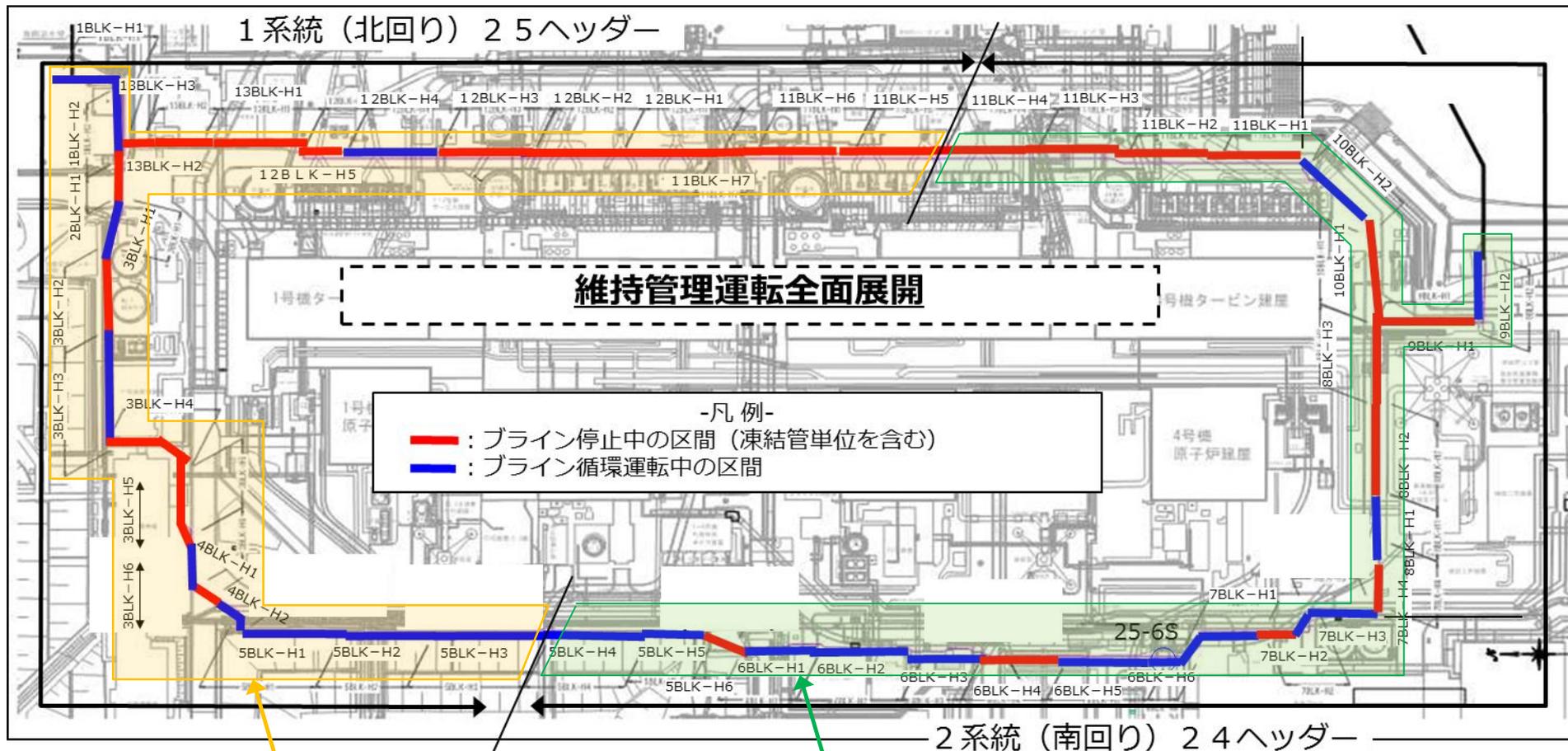
※測温管 (210-115) データは、手計りであり参考値

※2026/1/9の凍土壁設備の一時全停止 (4時間程度) したが、地中温度に変化は確認されていない

【参考1-7】陸側遮水壁の維持管理運転の状況（2/10時点）

- 維持管理運転*対象全49ヘッダー管（北回り1系統25ヘッダー、南回り2系統24ヘッダー）のうち27ヘッダー管（北側5、東側14、南側5、西側3）にてライン停止中。

*陸側遮水壁の必要以上の凍結膨張を制御するための運転



点検に伴うプラント1系統停止
(2026年3月中旬～4月 最長10日間)

点検に伴うプラント2系統停止
(2026年3月中旬～4月 最長3日間)

【参考1-8】 系統停止に伴う地中温度について

- 2023年2月に系統停止（7日間※）した際の測温管について、温度変化の傾向を確認した。※過去に計画停止した最長期間
- 温度変化が大きい測温管について、変化量を確認したところ、1日あたり約0.9℃の温度上昇であった。（図1）
- 今回の系統停止（10日間）によって、1日あたり約1.0℃上昇した場合でも地中温度が0℃に達する測温管はないと想定している。
（作業着手前にも温度評価を実施）
- 系統停止期間中に想定（約1.0℃/1日）以上の温度上昇により、地中温度が0℃に達する可能性が確認された場合は、作業を中断しブライン供給を再開する。

[測温管190-6S]

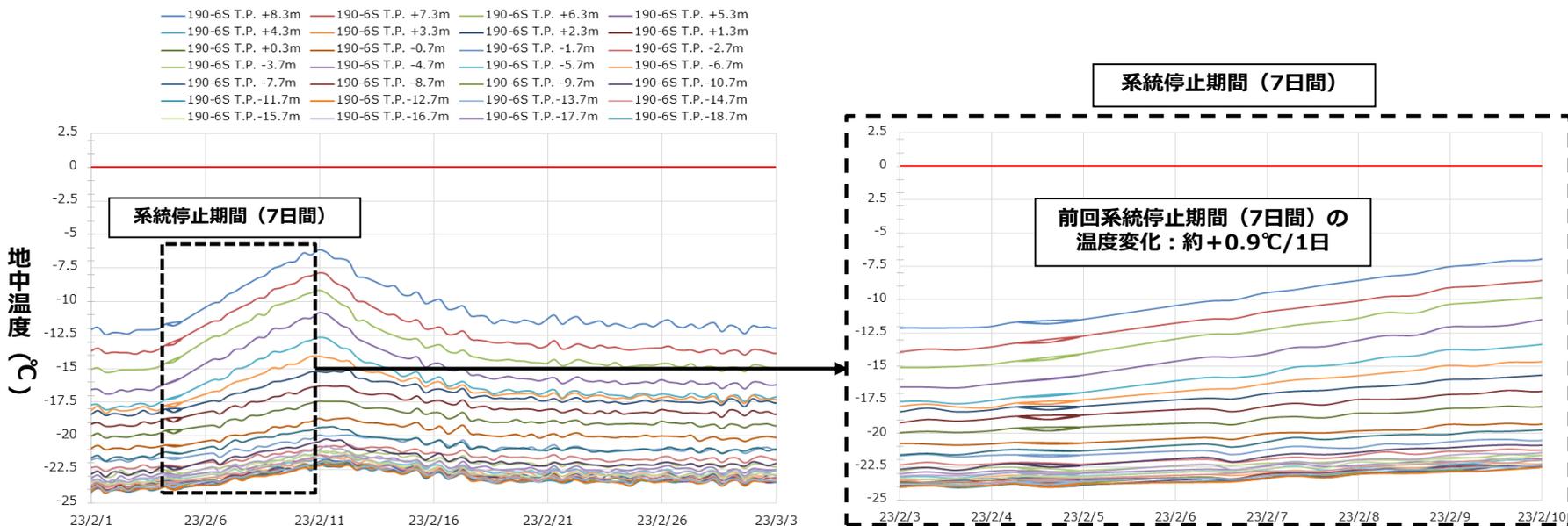
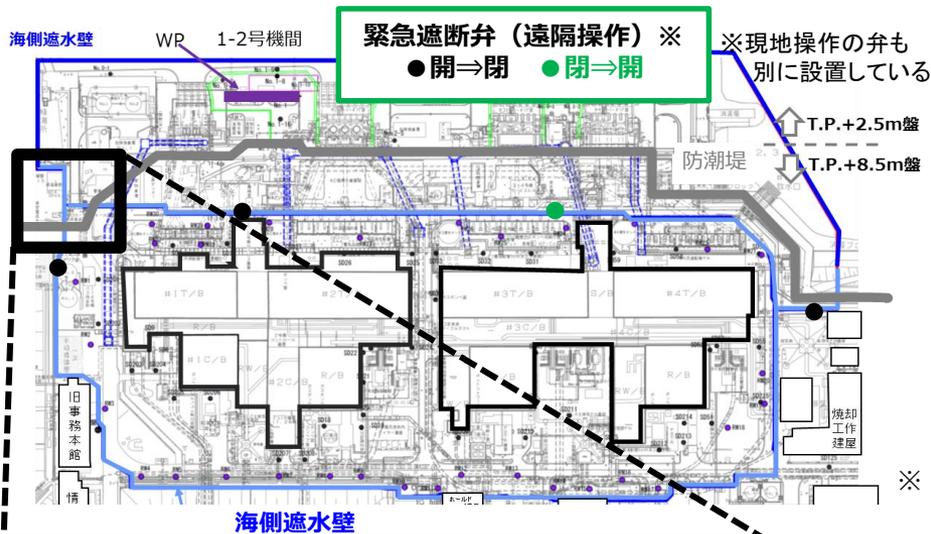


図1 前回プラント2系統停止期間（7日間）の温度変化（2023/2/3～2023/2/10）

【参考2】 陸側遮水壁ブライン供給配管等
の保護カバー設置工事の状況

【参考2-1】陸側遮水壁ブライン供給配管等の保護カバー（1号機北東部：TP4～9mまで）設置工事の完了

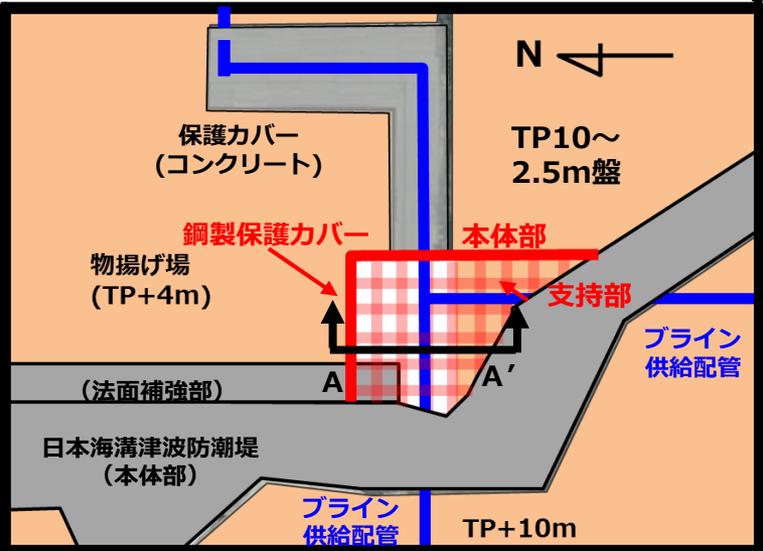
- ▶陸側遮水壁のうち、1号機北東部（物揚げ場付近）は日本海溝津波防潮堤の外側に位置しているため、陸側遮水壁のブライン配管を津波から保護することを目的とした津波対策を実施する。
- ▶保護カバー（TP4～9m）までの設置工事が2026年2月18日に完了しました。



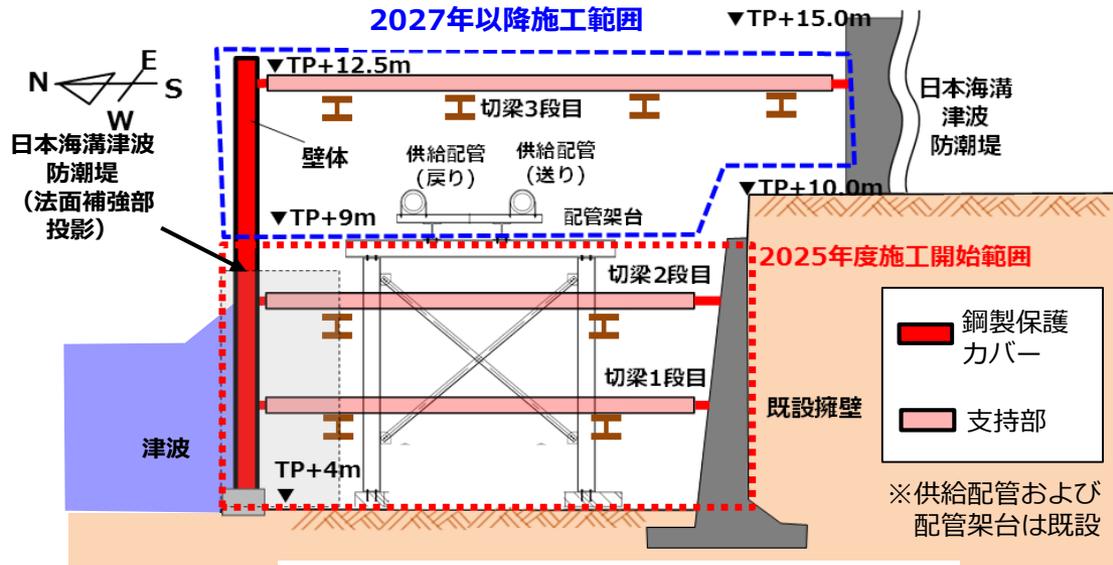
◆工程表

対象工事	2020		2023		2024		2025		2026	2027
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	-	-
日本海溝津波防潮堤工事	▼日本海溝津波モデル内閣府公表(2020.4)		日本海溝津波防潮堤工事							
防潮堤周辺アクセス道路整備			アクセス道路整備				▼保護カバー周辺の作業完了			
陸側遮水壁ブライン供給配管保護カバー							▼保護カバー設置工事(2025施工範囲)			保護カバー設置工事(2026以降範囲)

※ 保安設備との干渉がない高さ(TP+9m)まで先行して津波対策を実施。TP+9m～TP12.5mの範囲は保安設備移設等の調整後施工予定（時期調整中）



保護カバー平面図

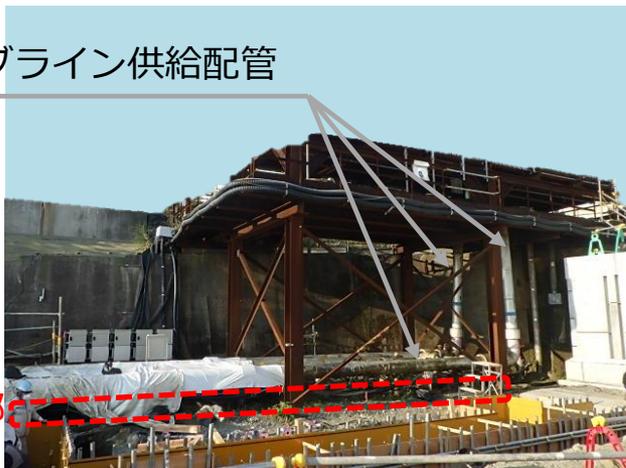


鋼製保護カバーの断面図(A-A'断面)

【参考2-2】陸側遮水壁ブライン供給配管等の保護カバー（1号機北東部：TP4～9mまで）設置工事の完了

- 陸側遮水壁ブライン供給配管等の保護カバー設置により、千島海溝津波（当該エリアでTP+10m程度）に対する防御機能を概ね発揮することが可能と想定しており、陸側遮水壁設備の津波リスクが低減しました。
- 引き続き、日本海溝津波（TP+12.5m程度）への対策工事についても2027年度初頭に着手を目標に検討を継続していく。

ブライン供給配管



凍結管頭部

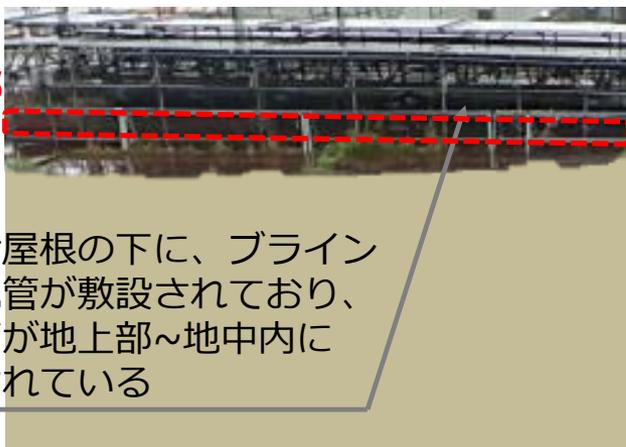
写真_鋼製保護カバー（着手前）



写真_鋼製保護カバー（完成後）

凍結管頭部

日よけ屋根の下に、ブライン供給配管が敷設されており、凍結管が地上部～地中内に設置されている



写真_海側盛土部（着手前）

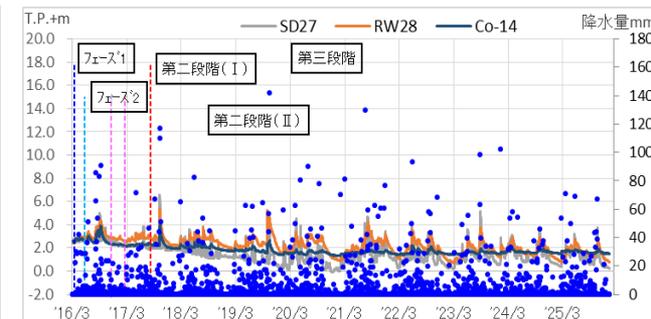
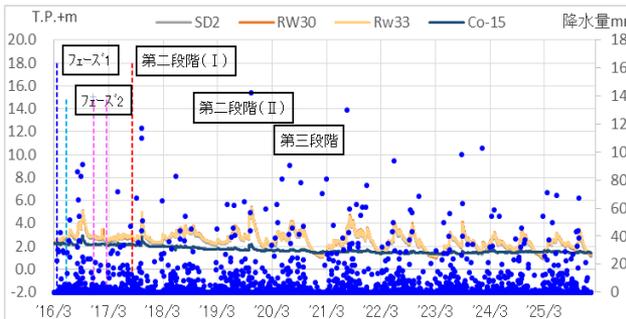
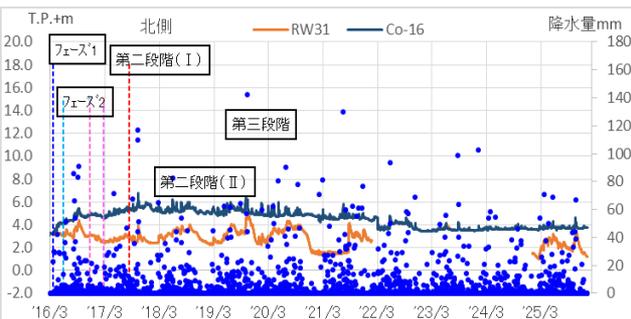


日よけ屋根を撤去し、ブライン供給配管及び凍結管頭部を盛土し表面をコンクリートにて保護

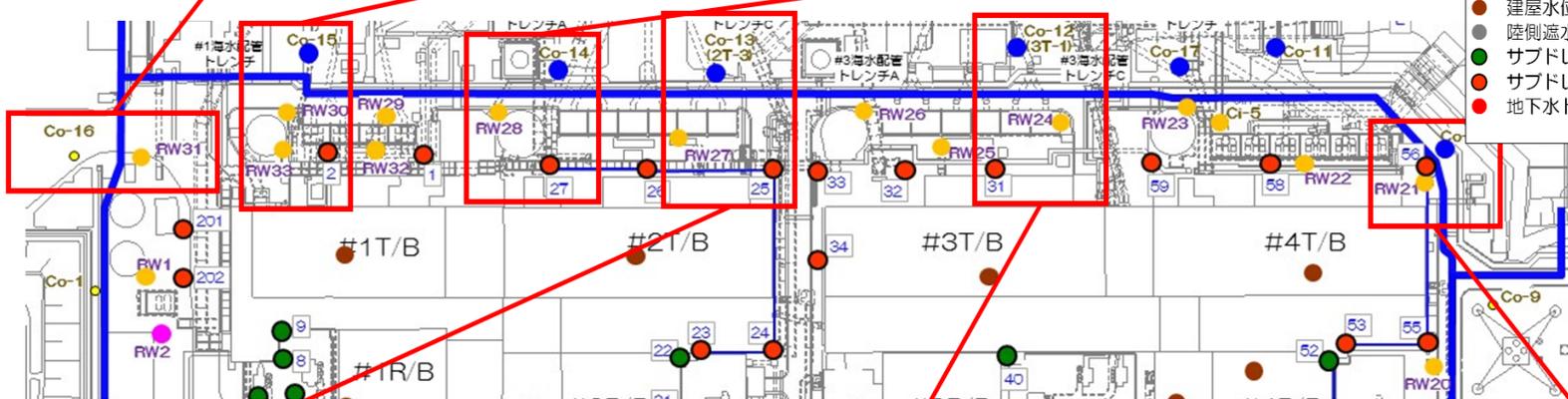
写真_海側盛土部（完成後）

【参考3】地下水位・水頭の状況

【参考3-1】 地下水位・水頭状況（中粒砂岩層 海側）

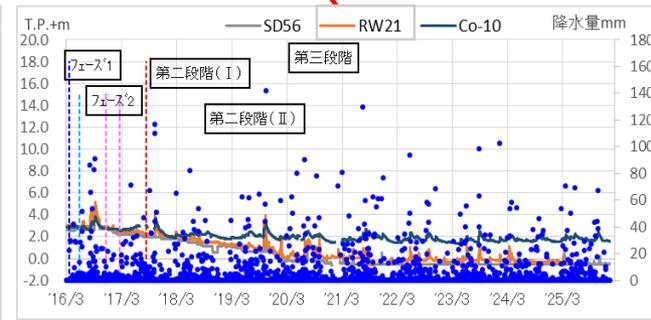
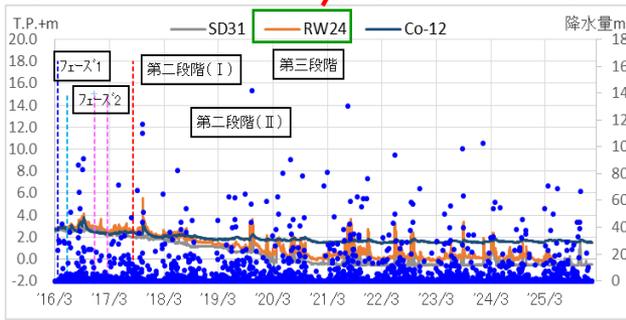
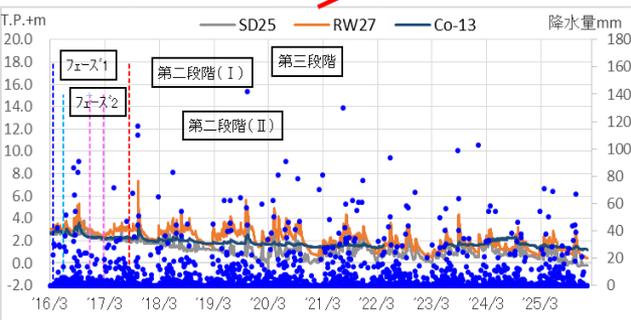


※RW31は、2022/2/2~
2025/1/17期間は、計器故障



- 注水井・観測井（山側）
- 注水井・観測井（海側）
- 陸側遮水壁（海側）海側観測井
- 建屋水位
- 陸側遮水壁（山側）山側水位
- サブドレン（山側）
- サブドレン（海側）
- 地下水ドレン観測井

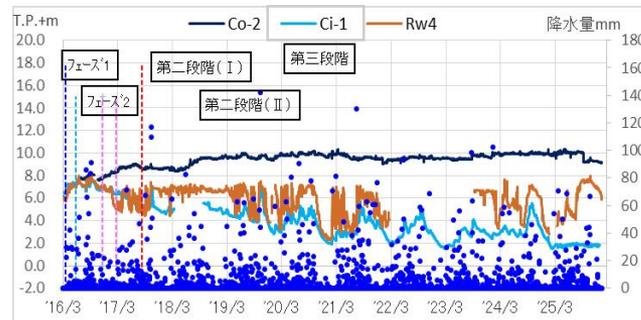
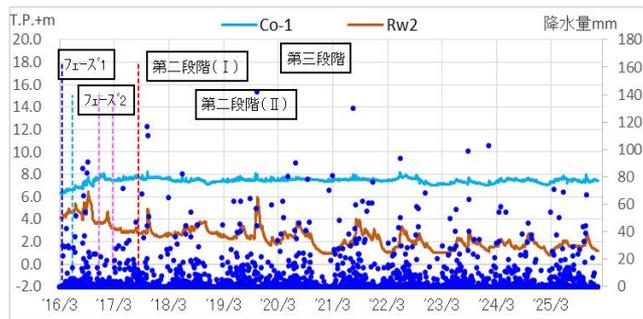
フェーズ1：H28.3/31~
フェーズ2：H28.6/6~
第二段階（I）：H28.12/3~
第二段階（II）：H29.3/3~
第三段階：H29.8/22~



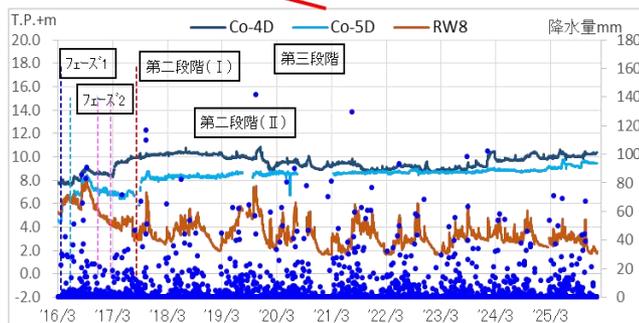
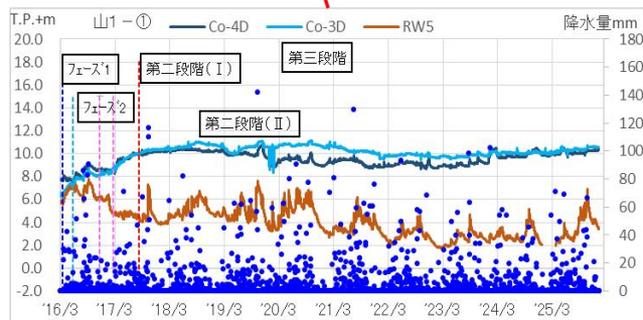
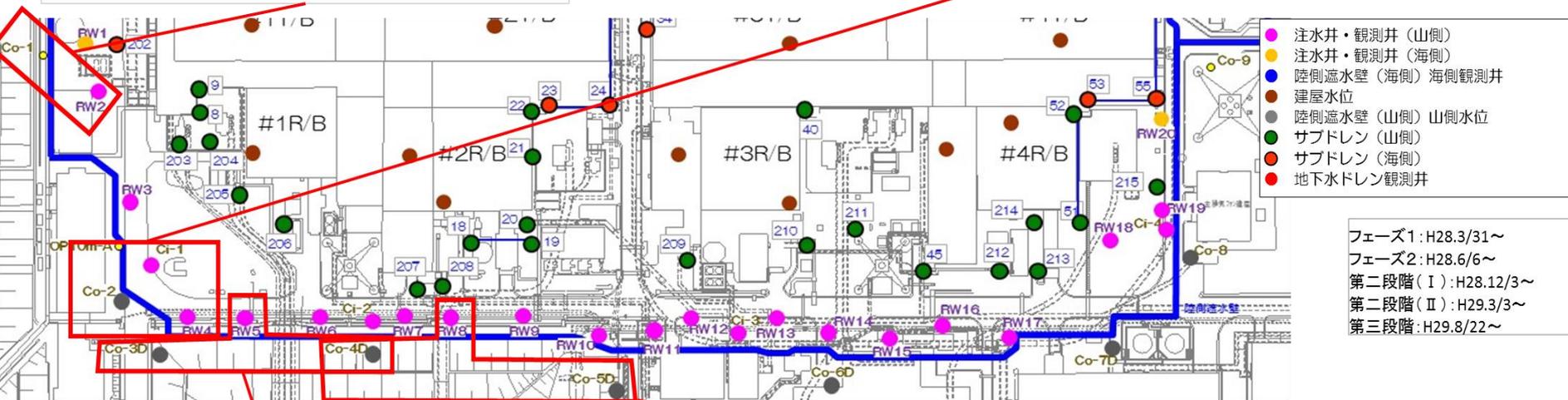
※Co-13は、2022/4/25~2023/6/26の期間は、計器故障

データ； ~2026/2/15

【参考3-2】 地下水位・水頭状況（中粒砂岩層 山側①）



※RW4は、2023/3/29~2023/9/20
の期間は計器故障
2025/2/3~ 水位計設置位置変更
により欠測
Ci1は、2026/1/8~水位計故障

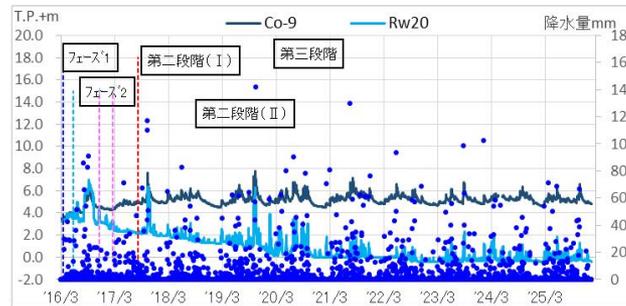


※RW5は、2025/1/4~ 水位計設置位置変更により欠測
※Co-4Dは、2026/2/1~ 観測孔内の凍結により欠測

※Co-4Dは、2026/2/1~ 観測孔内の凍結により欠測

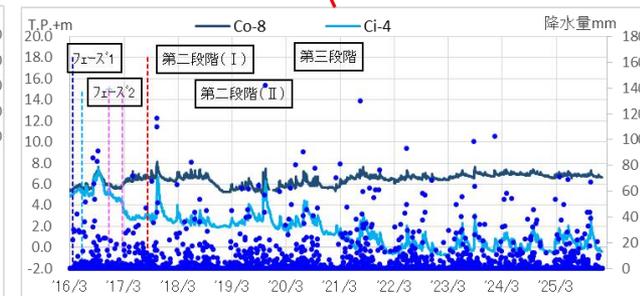
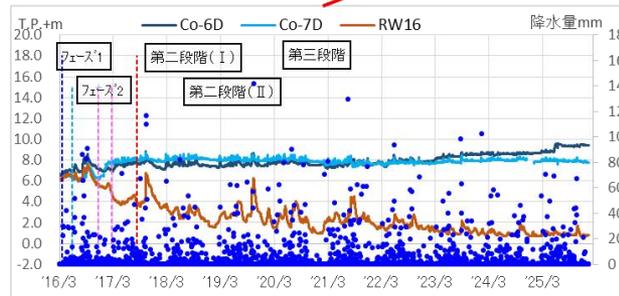
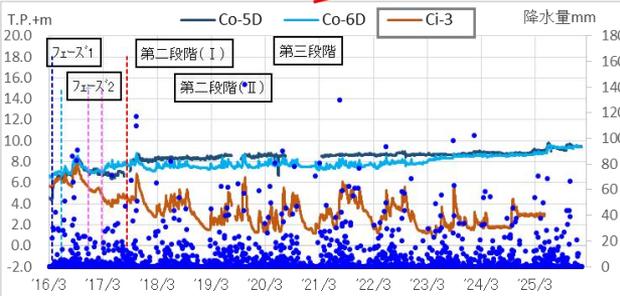
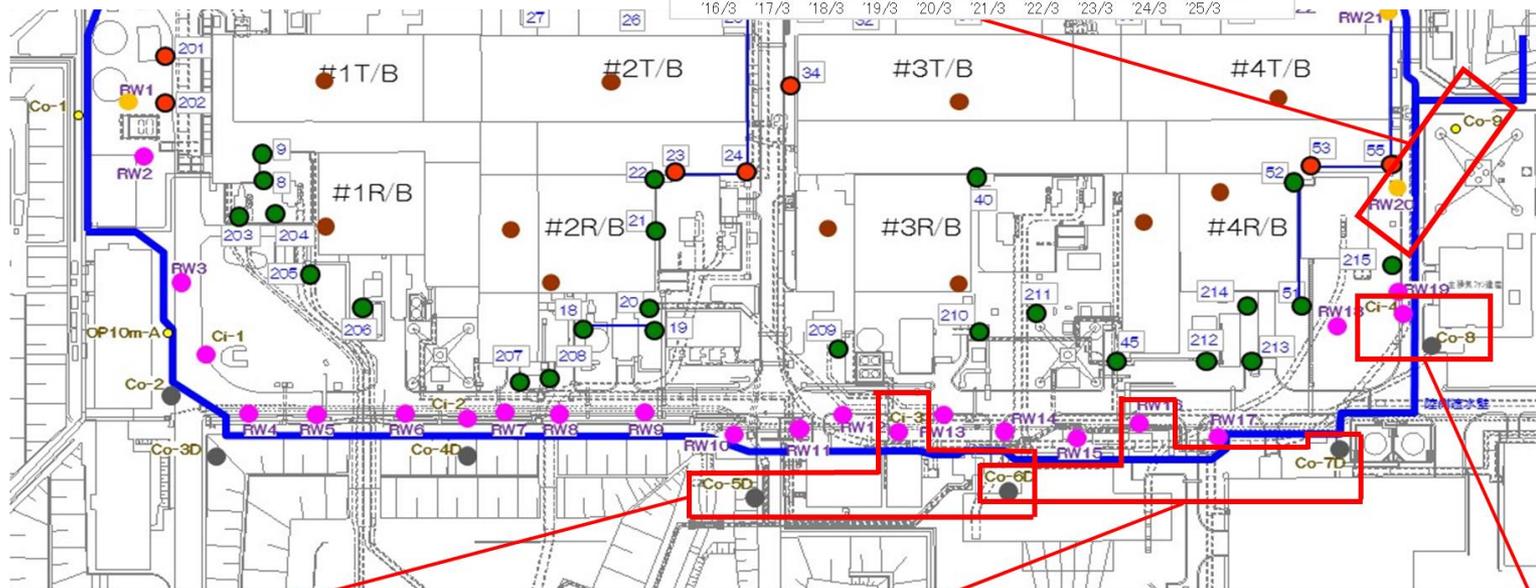
データ ; ~2026/2/15

【参考3-3】 地下水位・水頭状況（中粒砂岩層 山側②）



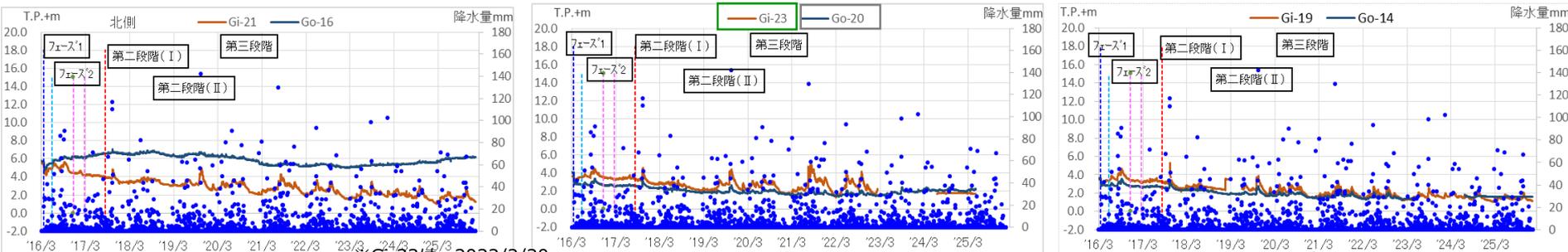
- 注水井・観測井（山側）
- 注水井・観測井（海側）
- 陸側遮水壁（海側）海側観測井
- 建屋水位
- 陸側遮水壁（山側）山側水位
- サブドレン（山側）
- サブドレン（海側）
- 地下水ドレン観測井

フェーズ1: H28.3/31~
 フェーズ2: H28.6/6~
 第二段階 (I): H28.12/3~
 第二段階 (II): H29.3/3~
 第三段階: H29.8/22~



データ ; ~2026/2/15

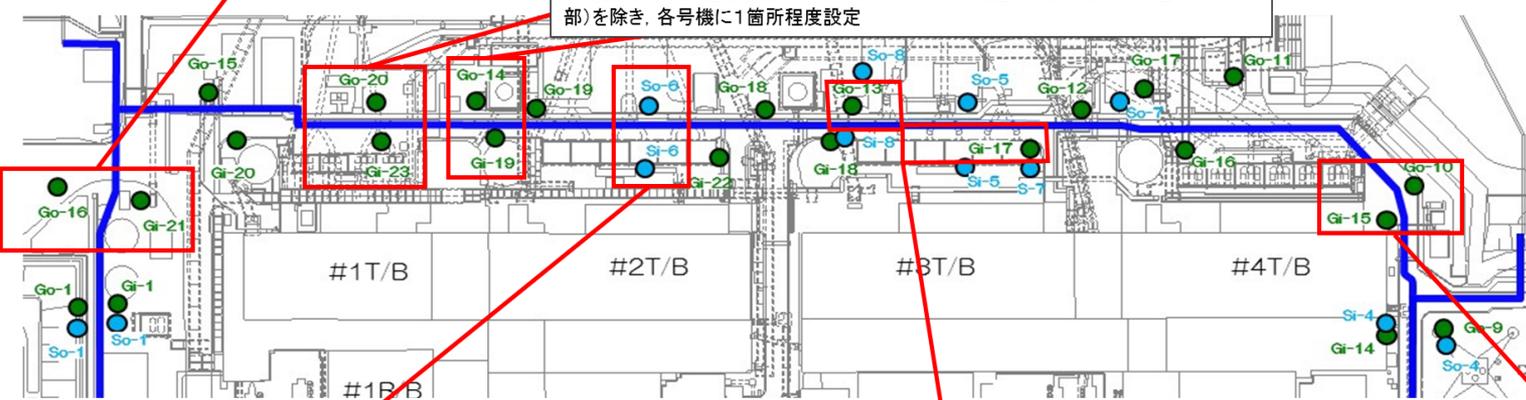
【参考3-4】 地下水位・水頭状況（互層、細粒・粗粒砂岩層水頭 海側）



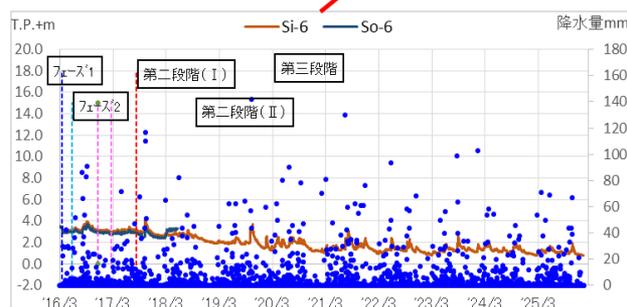
※Gi-23は、2022/2/20~
2024/6/25の期間は、計器故障

海側互層、細粒・粗粒砂岩のグルーピングは、非凍結箇所(各号機海水配管トレンチ下部)を除き、各号機に1箇所程度設定

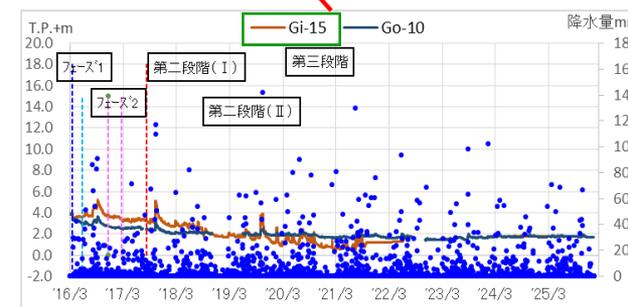
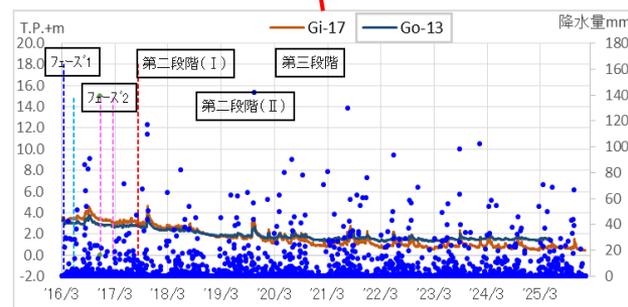
- 互層観測井
- 粗粒・細粒砂岩 観測井



- フェーズ1: H28.3/31~
- フェーズ2: H28.6/6~
- 第二段階(I): H28.12/3~
- 第二段階(II): H29.3/3~
- 第三段階: H29.8/22~



※So-6は、2018/6/1より計器故障

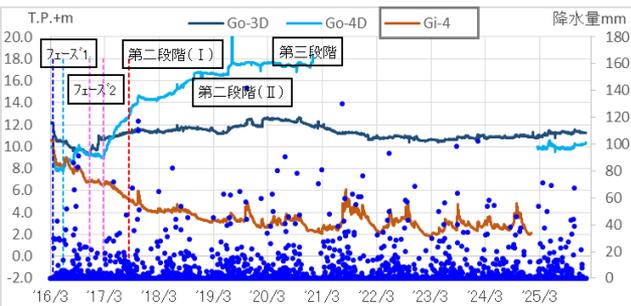


※Gi-15は、2022/7/4~2024/6/25期間は、計器故障

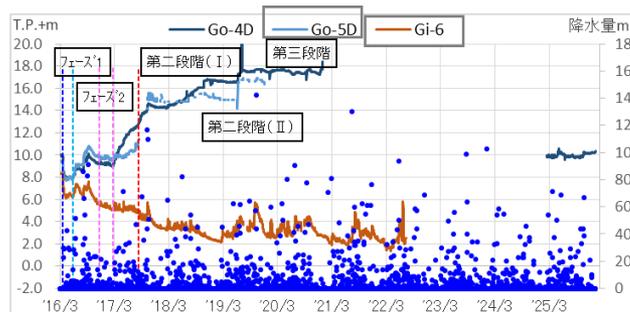
データ ; ~2026/2/15

【参考3-5】 地下水位・水頭状況（互層、細粒・粗粒砂岩層水頭 山側）

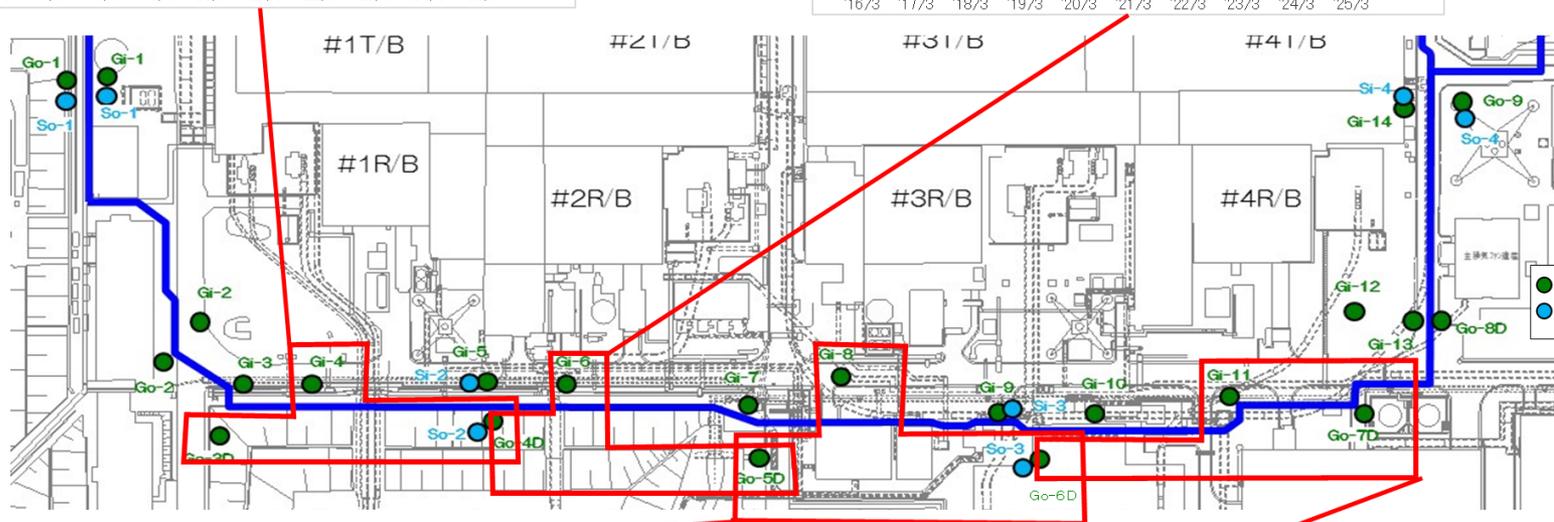
※Go-4Dは、2021/1/11より計器故障



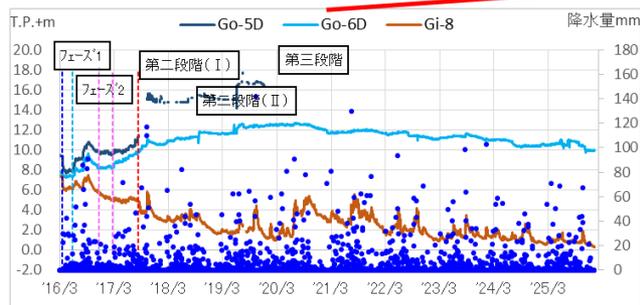
※Go-4Dは、2021/1/11より計器故障



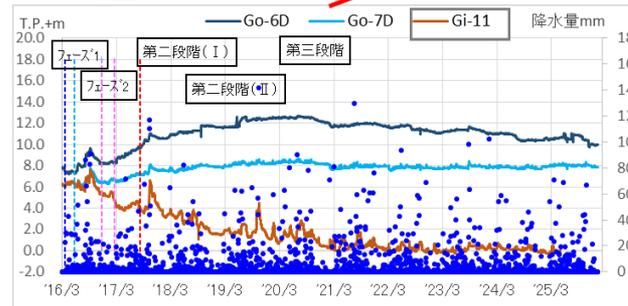
※Gi-6は、2022/7/25より計器故障



フェーズ1: H28.3/31~
 フェーズ2: H28.6/6~
 第二段階 (I): H28.12/3~
 第二段階 (II): H29.3/3~
 第三段階: H29.8/22~



※Go-5Dは、2019/12/16より計器故障



データ ; ~2026/2/15

【参考3-6】サブドレン・注水井・地下水観測井位置図

